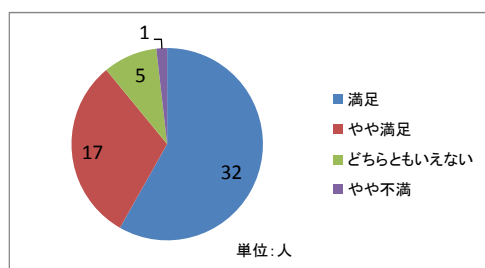


大学評価担当者集会 2012 事後アンケートの結果概要

I. 分科会について

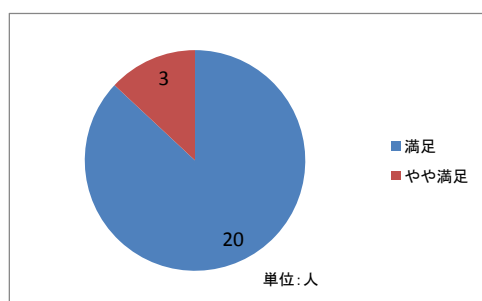
1. 第一分科会



「満足」もしくは「やや満足」と回答した参加者の割合は、全体の 89%に及んでいる。その理由としては、具体的な題材を通して実践的な議論ができた点、目標・計画の重要性を再認識できた点等が挙げられている。物足りなかった点としては、評価が中心で IR の議論ができなかった点、総じて昨年との違いがわからなかった点、内容が簡単すぎる点などが挙げられた。また、作業の時間が短いこと、事前学習の周知徹底不足、といった運営上の課題も指摘された。

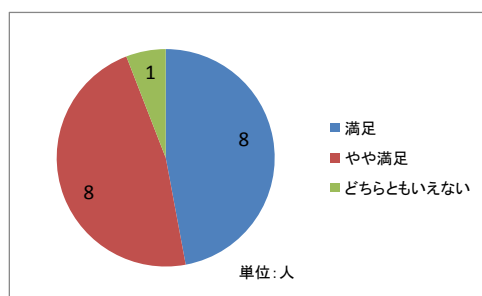
が短いこと、事前学習の周知徹底不足、といった運営上の課題も指摘された。

2. 第二分科会



回答者すべてが「満足」もしくは「やや満足」と回答している。具体的には、評価書作成の着眼点を学べたこと、グループワークで評価に関する視野を広げることができたこと等が挙げられた。

3. 第三分科会



回答者のほとんどが、「満足」もしくは「やや満足」と回答している。その理由としては、目標・計画を再考する手法を勉強できた点、そうした手法を今後の業務に生かせる点等が挙げられた。ただし、議論の時間が足りなかった点や説明がやや多かった点も指摘されている。

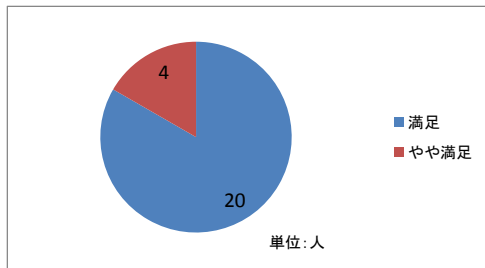
II. 集会全体について

まず良かった点としては、他大学・機関の関係者の方と交流できた点が挙げられている。特に、すべての分科会においてグループワークを採用したことにより、実践的・具体的な内容の議論を通して、お互いの問題意識や情報を共有できたと指摘されている。また、全体会を通して他の分科会の様子を聞いたことや、準備が周到であった点等も挙げられていた。

次に、悪かった点としては、各分科会における議論の時間が短かった点が指摘されている。グループで議論できる点を評価している一方で、より多くの時間をそうした議論に費やすべきとの声が散見された。また、全体会の進行が曖昧で、もう少しフロアとのやり取りをして欲しかった点も挙げられている。

来年のテーマについては、定量的データの分析や学習成果の測定といった IR の実践的手法、評価を改善に生かす方法（データ分析に限らず調整能力等）、評価指標の立て方、計画との連動といった点が挙げられた。

Ⅲ. 勉強会について



すべての回答者が、満足もしくはやや満足と回答している。その理由としては、EMの大枠が理解できたこと、具体的な取り組み事例の実態を学べたこと、等、その内容に満足している回答者がほとんどであった。また、質問紙を活用したことで質疑応答がスムーズにいった点も挙げられている。課題としては、勉強会自体の対象者のレベルを明確にしてほしいことや、やや発表・展開のスピードが速かったこと、質問の内容が少し細かすぎたことが挙げられている。

来年のテーマについては、IRやEMの詳細な事例を引き続き議論してほしいという要望がみられた。

アンケートのお願い

本日は、ご参加していただき、ありがとうございました。来年度以降も継続的に大学評価担当者集會を企画しております。つきまして、ご参加いただいた分科会及び全体の集會に対してご意見をいただければと思います。ご協力よろしくお願ひいたします。

1. ご参加された分科会について、おうかがいします。

(1). どちらの分科会に参加しましたか。該当する番号に丸をつけてください。

① 第一分科会

② 第二分科会

③ 第三分科会

(2). 参加された分科会の満足度について、該当する番号に丸をつけてください。

①満足

②やや満足

③どちらともいえない

④やや不満足

⑤不満足

(3). (2) で回答された理由をお聞かせください。

2. 大学評価担当者集會全体を通して、以下の点に関するご感想・ご意見等がありましたらお書きください。

良かった点

悪かった点

来年に取り扱って欲しいテーマ・内容等

その他ご意見・ご要望等

* 以下は無記名でも結構です。

ご所属 ()

お名前 ()

ご協力ありがとうございました。

No.	分科会	満足度と選択理由 (5:満足、4:やや満足、3:どちらともいえない、2:やや不満、1:不満足)	良かった点	悪かった点	来年のテーマ	その他意見・要望等	属性	
1	I	2	昨年の第一分科会と内容の違いがわからなかった。					
2	I	3	ケースメソッドと考えれば、以下のようなやり方をしたほうがより良くなると思いました。 ・事前にケースの読み込みとワーク(準備)を課す。 ・進め方やグループ内の分担をより明確にする。時間配分など。いろいろな人をグループに混ぜたのは良かったと思えます。楽しかったし、勉強になりました。	実際に大学評価を、どのような人達が、どのような考え方で、どのようなやり方で評価をしているかがわかったこと。		参加した第一分科会では定性的は分析が中心でしたが、定量データの分析についても深掘りしたい。	関	
3	I	3	考える(マインド)よりも具体的な手法などについて議論したかった。	評価に関わる人に広く開かれていくこと。	なし	イーブリック、アカデミックポートフォリオ	私	
4	I	3	交通機関が遅れ、途中からの参加となり、十分に議論に参加することができなかったため。				国	
5	I	3	課題はよくできていたと思うが、作業時間の設定が短すぎた。	評価で悩んでいるのは自分だけでなく、こんなに仲間がたくさんいたこと。		評価結果を最大限に生かす方法	国	
6	I	3	評価とIRデータ分析ということであったが、どちらかと言うと、評価書のチェックといった感じで、事務的、実務的な内容であった。分析かIRの手法などを話し合いたかった。 分科会ごとの違いを明確にしてほしいです。					
7	I	4	大学の評価担当者が実施されている業務をかいま見ることができた。	具体的な課題を通して、擬似的に評価業務を体験できた点。			関	
8	I	4	少し時間がほしかった。					
9	I	4	課題数が多いと感じました。同じ課題について、各班での検討内容を比較するという方法もありと思いました。				御担当の皆様、お世話さまですが、明日もよろしくお願いいいたします。	
10	I	4	・どの大学も同じような課題を抱えていることが理解でき安心(?)できた。 ・評価者と大学トップが目標・評価システムの認識をどのように共有化されているのか、そのレベルでの認識を大学構成員も知らなければならぬのではないか。	思考のプロセスが整理できた。		「初めて評価される方へ」のテーマは毎年開催してもらおうと助かります。	私立大学の目標・評価システムが具体的に国立大学とのちがいがあれば知りたかった。	公
11	I	4	充実した議論ができたと思う。実際大学で評価業務を行うときは、計画数が多いこともあって、なかなか1つの計画・実施記述をじっくり読み込むことはできないが、やはり評価担当者が評価書を見る目をきかえて、各部署への適切な指示・evidenceを引き出す作業を積極的に行っていく、さらには改善に向けた取り組みへとつなげていくことが必要だと感じた。評価担当者として大学のために何ができるか、今後も考えていきたい。今回の分科会を通じて、そのような気持ちを改めて持つことができた。	もっと議論の時間がほしいくらいだった。		評価業務の取り組み体制など、他大学の状況をもっと知りたい。評価に関する作業をどのように進めていけばいいのか、問題点や工夫できる点などを考えてみたい。		

No.	分科会	満足度と選択理由 (5:満足、4:やや満足、3:どちらともいえない、2:やや不満、1:不満足)	良かった点	悪かった点	来年のテーマ	その他意見・要望等	属性	
12	I	4	・グループディスカッションは、面白いが時間的に難しいと感じた。 ・もう少し座学でIRへの取組みを教えて欲しかった。	色々な人との交流				
13	I	4	・ポスターをまとめるまでの時間が短かった。 ・話し合うべき課題を事前に理解している程度に参加者間の温度差があった。 ・架空大学の事例は、話し合いが活発に行えるようになってよかった。		今回はWeb申込みの初回だからかもしれないが、参加申込みの手順が分かりにくかった。	・学習成果の測定可能性 ・内部質保証		
14	I	4	担当者が集まり大変熱心にスキルアップを計られている会であり、大変素晴らしいものでした。全体会でもう少しだけフロアとのインタラクションが実現されるとよりよいと感じました。事務系の方のファシリテーション等も期待申し上げます。	運営がスムーズ。建前的なあいさつ、講演がなく、勉強会としてしっかりと運営され、参加者の態度も真摯。	とくになし。もう少しだけフロアとインタラクションを。	評価担当者以外にも来やすいIRをとり上げたテーマ。	同上。たいへん素晴らしい会ですので、広くIR担当者の実務家が参加できる会になれば大変有難いです。	国
15	I	4	日常業務では、評価書を見ることはあっても、作成の経験がなかった為、違った視点で評価書を見ることができ、良い経験ができた。					国
16	I	4				現在(過去も含め)、評価業務には携わっておらず、むしろ、報告する部局の人間ですが、評価側の立場で考えることができ、どのようなデータ、資料、それに基づく文面が求められるのか理解することができ、参考になりました。		
17	I	4	・素直に議論していて楽しかったので。 ・第一分科会は、計画は6つではなく3つ位で良かった。他の発表をみても理解は限定的。 ・ツッコミどころも大切だが、このスキルばかり伸ばしても限界がある。サンプルや例題から優れた点を見つけ出し、ブラッシュアップして、アピールできるようなデータの示し方、書き方を議論することも大切ではないか。					
18	I	4	ポスターへのまとめ方について、説明がありませんでしたので、初めて参加される方はやり方をよく理解しておられませんでした。			IRデータの活用編が来年度開催予定ですが、活用についてはあまり経験がない方が多いと思いますので、課題等の設定については御配慮いただければ幸いです。		
19	I	4	資料の配付をできればもう少し早くしていただけると助かります。	内容についてはよく検討していたいて有為な内容でした。				私

No.	分科会	満足度と選択理由 (5:満足、4:やや満足、3:どちらともいえない、2:やや不満、1:不満足)	良かった点	悪かった点	来年のテーマ	その他意見・要望等	属性
20	I	4		各大学の評価に関する問題等を共有することができた。	IRについての話が少なかった。	IRについて(評価のためのIRではなく、意思決定支援のための)	
21	I	4	用意された資料や課題は大変よかったですと思います。ただ、用意された分量が少し多かったため、議論が満足にできなかったため、計画は1つでもよかったですと感じます。				
22	I	4	初めての参加ということもあり、発言をもっとすればよかったと思ったので。	架空の大学の指摘ということもあり、楽しかった。パワポの資料を見て、評価の仕事をする上で意識していきたい。			
23	I	4	途中参加となってしまう、申し訳ありませんでした。モデルからの研修というのは、実践という面で面白く、学内の研修に活用できればと思います。	本学で担当している課題や不満が、他大学も同じような意識を持っていることがわかり、改善の1つとして有意義な情報を得ることができた。			国
24	I	4	他大学との方も交えて手法を学べたことは良かった。自大学でもやってみたいと思います。時間配分が上手いかなかったことが大きいですが、もう少し時間が欲しかった。			実施時期を9月後半から10月が望ましいです。	
25	I	4	今春から評価を担当しているが、評価案の修正等のプロセス、また、指標の重要性がよく理解できた。また、全体会での意見交換は、考え方を整理する意味でも、非常に参考になったと思います。	他機関の人達と交流できて良かった。	時間が少なかった。できれば2課題程度の実習ができれば良かったと思う。	評価指標のたて方と将来への継ぎ方について。	国 お世話になりました。
26	I	4	時間が短かったが、班の中で進行を担当された方がテキパキとされ、作業ができたが、最後まで作業ができずに消化不良な感じでした。全体を通しては、運営スタッフの方の入念な準備のおかげで、とても満足しています。				
27	I	5	大学評価担当者集会が早や6回目ということは知りませんでした。初めて参加しましたが、テキスト(落とし穴いっぱい)を事前に学習してのぞみましたが、グループ(2班)の議論のなかで半分も見抜けていないことが判明し、愕然としました。自大学の自己点検評価に3度参画してきましたが、まだまだわかっていないことが多いことがよくわかり感謝しています。	今回は九州大学ではなく神戸大学という会場で比較的近かったので参加しやすかった。(管外出張はむずかしい)	本学でもわずか3名の出席でさびしい限りです。どう拡げていくか、考えていきたい。	公立大学協会の新基準をどう扱うか。	公
28	I	5	具体的な事例演習を通じて自己点検・評価力を養うことが出来たため。	今回初めて参加しましたが、他大学の評価担当者の方とつながりが出来て、情報共有出来る良い機会となりました。		認証評価、教員評価等	国

No.	分科会	満足度と選択理由 (5:満足、4:やや満足、3:どちらともいえない、2:やや不満、1:不満足)	良かった点	悪かった点	来年のテーマ	その他意見・要望等	属性
29	I	5	同じ目標でも目線の違いで色々な分析を聞くことができ、とても勉強になりました。ただ、去年は違う分科会に参加していたので、去年も参加していれば継続性が感じられ、さらに勉強になったと思いました。(個人的に)				
30	I	5	評価作業に携わることがまだあまりなかったのですが、具体的にグループで議論をしながら作業を行うことで、よい経験ができました。	グループワークを通して、自ら学びながら参加できること。	ポスターを作成する時間が足りなかった。		
31	I	5	直接評価の担当ではありませんが、考え方が勉強になりました。今後の業務に活かせたらと思います。	様々な方と話(議論)をする機会があったところ。			国
32	I	5	ケーススタディを通して評価の視点を学べたことが満足であった。	大学へ帰っても活用できる資料をいただきありがとうございました。			私
33	I	5	とても実践的な内容でよかったです。次年度は第三分科会に参加してみたいのですが、本来は計画を立てる当局者こそが参加すべきで、自分のような係員がどこまで大学に貢献できるか疑問符もあり、なやましいところです。	実践的でないようであったこと。	時間が足りないこと。	満足度の「選択理由」で記述しました。	
34	I	5	具体的な題材を元に検討できたので、単なる一方的なinput型の集会ではなく、参加者間の学び合いがある集会となり、大変有意義でした。	具体的なディスカッションができたところ。	(悪いというわけではないのですが)もう少し議論の時間を頂きたかったです。	評価結果を、高校生や高校教員にどうフィードバックするか。	関
35	I	5	お客様(企画・評価)が普段どんな業務を行っているのか?どんなことに困っている、悩んでいるのかを、分科会の演習を通して少しわかることができましたと思います。				関
36	I	5	・個人では気づけなかった評価視点を学ぶことができたこと。 ・評価上の留意点を体系的に整理することができたこと。	グループワークにおける多様な視点で意見交流・経験交流		・内部質保証システム(全学的な方針を検証し、改善する仕組みのあり方) ・ベンチマークによる評価の留意点。(理事者からの要望が多いため)	私
37	I	5	評価活動の中で私が重要と考えている「計画の進捗管理」の部分について、各部署から提出されてくるデータ・報告のどこに着目すべきか、また、評価担当側からの提案、各部署が納得のいくような修正依頼の仕方について、ワークショップの中で学ぶことができたため。	事前に資料を見ることができたので、自分の意見をまとめる時間が確保できたこと。		評価報告のネガティブな面を指摘するだけでなく、一見計画から外れているような成果データでもいいものがあるれば、それを活用するという技量も評価担当者に求められていることがわかってよかった。	国

No.	分科会	満足度と選択理由 (5:満足、4:やや満足、3:どちらともいえない、2:やや不満、1:不満足)	良かった点	悪かった点	来年のテーマ	その他意見・要望等	属性
38	I	5	具体的な目標・計画について、時間をかけて、中身の検討をすることができ、考え方の整理をすることができたため。 実務上は時間に追われてなかなかできないため。		場所がやや遠い(新神戸から距離がある)	改善に関する事で良いと思います。	
39	I	5	提出されたデータについて、どのような視点で分析すべきか、他大学の方の意見を聞いて参考になった。	「選択理由」のとおりにても勉強になった。	特にありません。		
40	I	5	大学評価担当者ではありませんが、何かを評価するために計画、目標の策定が必要であることについて、学習できました。 またその目標、計画は明確であれば良いはずですが、実は明確に出来ないことがあり、それはその目標、計画自体に問題があることもある、という議論がとても興味深かったです。				
41	I	5	同じ仕事をされている他大学の方と関わる機会を設けていただく貴重な機会であると思っております。 ありがとうございました。				
42	I	5	テキストデータの分析ポイントがわかった。目標と指標の関係、データの使い方など大変勉強になった。				
43	I	5	評価の進め方がイメージできたから。				
44	I	5	目標、計画の進捗把握のための指標設定について、活発な議論ができ、評価にあたっての目のつけどころ、カンどころが養われた気がする(多少なりともですが)。 ただし、事例のポイント(つっこみどころ)がわかりやすすぎるものもありましたが・・。意図的にされていると思いますが、そこに皆の意識が集中しすぎた感もあります。	運営がスムーズであった。幅広い分野の方と議論ができた。	「選択理由」の後半部分。ある意味。ご苦労は十分に理解しております。	国の政策(ポートレート、改革実行プランetc)への対応	国
45	I	5	評価の視点(特にデータ)について認識できた。	分科会がグループ討論で充実していた。			
46	I	5	現時点での評価に関わる自分の力量が明確になった。				
47	I	5	課題が実践的で、国立大学法人評価実績のとりまとめ等にすぐ使えそうです。		もう少し時間をかけて各議題の改善方法などを説明して頂ければ良いのかなと思いました。		
48	I	5	内容が充実していた。			基礎的な内容のセミナーを開催していただいて、多くの大学関係職員が参加できるようにしてほしい。	公
49	I	5					
50	I	5	現在、IR等で統計的なデータ作成を含めた評価をしておりますが、具体的な研修プログラムのテーマに基づいた内容がわかりやすかった。				関

No.	分科会	満足度と選択理由 (5:満足、4:やや満足、3:どちらともいえない、2:やや不満、1:不満足)	良かった点	悪かった点	来年のテーマ	その他意見・要望等	属性
51	I	5	評価は大学内部にこもったものになりがちだが、他大学の評価に関する考え方を知ることができた。				国
52	I	5	日頃、落ちついて問題点の把握をする機会がなかったので、改めて評価の分析の視点を学ぶことができてとても良かった。				国
53	I	5	・グループワークによるセッションであったため。 ・通常業務の観点等を確認する良い機会になった。	事例を用いたグループワーク	時間が少々足りない感があった。		
54	I	5	大学評価について、具体的な検討議論ができた。			全体会の中で小湊先生が発表されていましたが、まさにその「改善」について。IR的な意味でデータを集積・分析すること、それを「改善」(政策形成)に結びつけることがスムーズにつながらないことを、現場感覚として実感している。政策形成にはIRとは別の、「発想」や「プレゼンスキル」、関係者との「調整」など様々な能力が必要ではないかと思う。そうした点も含めて「改善」について扱っていただきたい。	私
55	I	5	目標計画とデータの適切性について、例題に基づき、評価の進め方について実践することができた。また、他の班のさまざまな考え方や発表が参考になった。				国
56	I	5	具体的な事例に基づき、実践的な作業が体験できたこと。	同じ	特にない		大変良かった。来年も是非参加したい。
57	I	5	昨年とは異なり、事前に予習課題があったことで、より、内容のある議論ができた。				公
58	I	5					
59	I	5	・企画の趣旨が明確であったため。 ・グループ討議の後、同一の事例ケースについて、他のグループの議論内容をうかがうことで改めて考えることができたため。 ・事例集(プレ終了評価)はよく考えて作られていたため。	運営が(事前も含めて)大変円滑であったと感じた。			私

No.	分科会	満足度と選択理由 (5:満足、4:やや満足、3:どちらともいえない、2:やや不満、1:不満足)	良かった点	悪かった点	来年のテーマ	その他意見・要望等	属性
60	II	4					
61	II	4	非常に役に立った。できればもう一つくらいの分科会にも参加したかった。	大学で具体的にどのように自己点検評価を行っているのか実感できた。			関
62	II	4	全体的には満足です。時間的に丸一日で演習したかった素晴らしい内容でしたので、肯定的な意味で「やや」にさせていただきました。	実務・演習を通じた研修で、次につながる情報・スキルを身に付けさせてもらいました。	会場の都合もあつたのは重々承知しておりますが、出来れば、スクリーンに対して横向きにすわる事が出来れば…。背中にあるのはちょっとつらかったです。	参加料なく、運営頂いて感謝です。ありがとうございました。	私
63	II	5	大学評価業務の歴史、意義、課題点などが聞けて、業務あたる際の参考になった。また分科会はシュミレーションで体験できたこと、他の人の考えや意見が聞けて参考になった。				
64	II	5	評価をする意味を少しみつけたように思いました。"何故やるのか"を忘れずにこれから取り組みたいです。(具体性のなさは大きな課題だと思った。)	実はもっとおカタイ会かと思っていました。そんなことがなく、エネルギーシユな方々ばかりで、意欲的に参加できました。「元気のでる評価」という言葉が、とても心にのこりました。大学(学生、教員)が元気になる評価を志したいです。小湊先生のワークショップがとてもよかったです。お話が聞けてよかったです。		もっと評価について学びたいと思いました。来年もぜひ参加したいです。	国
65	II	5	事例をもとに実践ができ、経験・実感しながらできたため、わかりやすかった。	具体的な、現実性のある議論ができ、問題点、注意点等がよく理解できた。	分科会でも各班のまとめた紙も全部目を通したかった。	評価指標の設定について	
66	II	5	評価書の見方についてグループの方から意見をいただき、視野を広げることができました。また、初心者でも取り組みやすいよう課題設定していただいたことも有難かったです。	他の分科会とのつながりを全体化で見えたのが良かったです。評価の目的をしっかりと考えることができました。	ないです。	来年は第一分科会のような内容のものに参加できればと思います。	公
67	II	5	グループ別のワークやディスカッションを通じて、理解を深めることができた。また、講義や他の参加者の視点により、視野が広がったように思う。				

No.	分科会	満足度と選択理由 (5:満足、4:やや満足、3:どちらともいえない、2:やや不満、1:不満足)	良かった点	悪かった点	来年のテーマ	その他意見・要望等	属性	
68	II	5	事例を使用して、改善されるべき点を議論することで、他の参加者の意見が聞けたので、勉強になりました。所属大学での実務においても、今回学んだ評価のチェックポイントを意識して評価していきたいと思えます。	他の分科会についての活動報告があった点が良かったです。より高度な内容の分科会といかに関連しているかが明確になりました。また、交通情報の資料が準備されていて助かりました。	最後の全体会での討論がもう少し内容を事前に共有して頂いてスムーズに話すとわかりやすかったかと思えます。	企画(計画)と評価との整合性について	国	
69	II	5	評価に関わる業務に就いてまだまもないですが、評価を行うにあたっての注意点等を学びました。特に、言葉の捉え方が人々によって全く異なることが実感できたので、学部・研究科等への依頼・照会の際は気をつける必要があることがわかりました。	今、業務に携わっているためのみならず、中・長期的にも役立つ内容となっていたのが良かったです。				
70	II	5	評価における記述の問題のポイントがよくわかった。	評価と目標・計画との連携、もしくは評価結果のアクションへの反映の問題を理解できた。	時間が短くフロアとの討論が不十分と感じた。	大学の年度計画の達成度評価を大学構成員の多くが見ていない現状があるように思う。評価結果の共有のための方法論や工夫を知りたい。	国	
71	II	5	自己評価書のチェックポイントの勉強になった。	レベルが3段階の分科会があり、参加しやすい。		机の(椅子の)配置を、講師の話を聴きやすい向きにしておいていただければ首が痛くないです。		
72	II	5	具体的な例で評価書の問題点をチェックすることで、どのようなことに注意して資料集めや文書を書く必要があるかよくわかりました。				国	
73	II	5	・少人数グループで自身の意見の評価を受けることができた。 ・基本的な質問を参加者に投げやすかった。	少人数のグループ討議	・開催場所を1年前に表明してほしい。(交通費の予算どりが困難でした) ・全体会において、他の分科会がどのような議論をしているか詳細に分かっていないので、若干ついていけないところがあった。	データの収集方法、保存方法(Database等)	初学者にとっても分かりやすい、参加しやすい会でした。大変勉強になりました。誠にありがとうございます。	私
74	II	5	一見すると問題のないような報告書でも様々な穴があるのだということ、具体的事例を用いて体験できたことは大変貴重な機会となりました。	あらゆる点において準備が周到で、流れに乗りやすかった。			私	
75	II	5	予想した以上のレベルで、今後の評価実務に大いに役立つものになったと思う。					
76	II	5	どういった点に着目して評価書を見てゆく、あるいは作成していけばよいか、つかめた気がします。					

No.	分科会	満足度と選択理由 (5:満足、4:やや満足、3:どちらともいえない、2:やや不満、1:不満足)	良かった点	悪かった点	来年のテーマ	その他意見・要望等	属性
77	II	5	評価書を分析する上でのヒントが得られて大変勉強になった。				
78	II	5	初心者なので、指摘すべき点が見つけやすくなっている点はありがたかった。同時に、中級程度のことも少し入っているので勉強になった。	およその年数に分けた班で分科会を行っていたので、発言しやすかった。		分科会で先生が説明に使った資料を(事後でもよいので)もらえるとうれしいです。	国
79	II	5	「評価」とはどういうものかイメージできるようになった。				
80	II	5	評価の視点をていねいにわかりやすく説明していただき、大変役に立ちました。	最も基本的な考え方をご教示いただき、納得できることが多々ありました。ありがとうございました。	要領がわかるまで、ちょっととまどいました。		私
81	II	5	基本的な評価方法、捉え方等、学ぶべき点について理解を深めることができたため。				
82	II	5	具体的な事例を取り上げながらの分科会で、とても実践的だった。他の班の方の意見も大変参考になった。				国

No.	分科会	満足度と選択理由 (5:満足、4:やや満足、3:どちらともいえない、2:やや不満、1:不満足)	良かった点	悪かった点	来年のテーマ	その他意見・要望等	属性	
83	III	3	すべて最初に1時間説明し切るのではなく、説明→作業→説明→作業とやってみてはどうか？資料の例示と、実際の作業で使う課題のレベル(幅)が違いすぎると思う。	他大学の評価担当者を知り合う機会となる。	クーラーがきつかった。	企画・準備が大変かと思うが、分科会を増やし、理論より実務型の研修を増やしてはどうか？(他に適当な評価研修がないので、ここでやっていただけでもありがたい。)	可能な範囲で、各大学の評価担当部局名、担当者名、連絡先の一覧を作って、年1回の集会の特に配布してはどうか？みなさん意外と情報が無いのでは？	国
84	III	4	目標・計画を再考する良いきっかけであり、ツールも有用でしたが、消化しきれぬ時間がなかったのが残念でした。	評価担当者の経験・興味を想定したプログラム構成だと思いました。他大学評価関係者との交流の場としても貴重です。		評価可能性を踏まえた目標設定をもう少しつぎつめたいと感じました。理想例よりも「妥当な」目標とは何か、その下で可能な評価のあり方を学びたい次第です。		国
85	III	4	問題へのアプローチの方法が理解出来ました。ただ課題を全て修了した訳ではないので、引き続き勉強したいと思います。	問題点の共有化	個人的に初めて業務を行うことになったので、もう少し時間があれば良かったです。	引き続き計画に主眼を置いた研修会を開催していただきたい。	大学評価コンソーシアムが考えている、思っている理想的な大学(計画の立て方、評価方法等)を参考にご教示いただきたい。その大学へ出張し、ご教示願いたいです。	
86	III	4	問題意識を参加者と共有し、一定の解決方法を提示いただけました。					
87	III	4	中期目標・計画と評価の関係について、ロジックとして考えるということが初めてだったし、非常におもしろかった。	国立私立大学間の情報交換ができた。	時間が短かった。			
88	III	4	もう少し突っこんでやりたかった。内容は◎です。					国
89	III	4	計画策定を含め、評価活動に11年従事しました。現在、少し離れてみて、やはり、評価と現場の教育研究活動のバランスの難しさを感じています。分科会でご教示頂いたツールの有効性は非常にあるという思いの一方で、導入した時の学内構成員との摩擦を懸念しました。今回のツールは評価という場面よりも日常業務でプロジェクトを企画するような場面のほうが有益だと感じました。	全国の評価担当者を知りあえる点。	全体会のまとめがあいまいだった点。			国
90	III	4	「評価」というよりは、「課題に対する目標設定」という、受講前にイメージしていたものと異なっていたが、これはこれで参考になりました。今回はあまり触れられなかった「指標」についても、もっと知りたいと感じ、次回も参加させていただければ幸いです。	グループワークが中心であった点。		中長期的な目的・目標計画について		

No.	分科会	満足度と選択理由 (5:満足、4:やや満足、3:どちらともいえない、2:やや不満、1:不満足)	良かった点	悪かった点	来年のテーマ	その他意見・要望等	属性	
91	III	4	分析手法の体験ができました。ありがとうございます。ただ、時間が足りなかったように思います。	チームワークを築くことができました。	時間がタイトでありました。	学生調査の利用について(個人的な関心です)	大会運営ごころさまです。	私
92	III	5	これまで聞いたことがなかったアプローチ方法を学ぶことができ、満足している。			実践的なIR推進方法についての事例紹介や演習を取り扱ってほしい。	昨年までであったようなブレ企画が、やはりあった方がよいと思う。	
93	III	5	計画と評価について、その立案・問題点解決を体系的に学ぶことができた。(理解は十分でなかったが、持ち帰って整理して活かすことができそうである。)	評価専門の先生や他大学の評価担当者の考え方や作業を行うことは大変勉強になった。	時間が足りなかった。(能力不足でした)	認証評価(教育に関する評価)		
94	III	5	今後の業務の参考となるため。	実際に作業できたのが良かった。				
95	III	5	講義・グループワークは良かったが、グループワーク発表後のディスカッションの時間が、もう少し長い方が良かった。(短かった)					
96	III	5	本日学んだ目的・計画は、計画の改善、次の計画作成に役立てられると思っています。		分科会では、もう少し時間がほしかった。			国
97	III	5	目的・計画と指標の作り方を実際に体験できた事がよかった。	ツールに出会えた事。	できれば、第一、二分科会の内容も詳細が知りたかった。			関
98	III	5	演習を通じて、目的・計画のレビューの重要性が体感できた。					私
99	III	5	非常に勉強になった。他大学の動向がわかって非常に有意義であった。	他大学の動向がわかってよかった。他大学と連携して、評価作業を行っていこうと思います。	特になし	計画と評価の基礎。特に計画の観点からお願いします。	手弁当でやっていただいで本当に助かります。	

※属性について 国:国立大学、公:公立大学、私:私立大学、関:関係機関

No.	満足度と選択理由 (5:満足、4:やや満足、3:どちらともいえない、2:やや不満、1:不満足)	来年のテーマ	その他意見・要望等	属性
1	4	<ul style="list-style-type: none"> ・エンロールマネジメントの大枠についての理解が深まりました。 ・データを集め分析をしたその先が課題なのは大学の規模は関係ありませんね。 ・質問が細かいところについてしまったのが残念です。 ・事例研究が「つきつめてやる」ことの意味を考えさせるものでした。 	IRで収集したデータ分析例について。	
2	4			
3	4	いずれのテーマも大変興味深いもので、参考になりました。講演のスピードがやや速かったのが残念でした。もう少しじっくり聴きたいと思えるほど、充実した内容でした。		
4	4	ある程度の対象者のレベルを示していただいた方が良かった。 部署の上位者や教員対象とするなど、簡単でいのでよろしく願います。		
5	5	具体的な事例と、それを実行する為の苦勞を知る事ができた。また、講師の本音も聞けて非常に有意義でした。		
6	5			
7	5	EM、IRの関係、取組事例が非常に興味深かった。		国
8	5	エンrollmentマネジメントの意味、それとIRの関係がよくわかりました。 また、実例を通して話されたのでわかりやすかった。		国
9	5		EMの優良事例	
10	5			
11	5	横断的なDBの必要性、学生調査等の要件等、非常に刺激になりました。同じ大学の人でも中々話しをする機会がないので、本学EMの構想についても改めて勉強しなおせたことも収穫でした。		国
12	5	企業の研究所の中で、大学教育改革・改善のお手伝いをしていますが、少人数でオープンな各大学のお話が聞けることは、活動の方向性への示唆をいただけます。 また参加させていただきます。		関
13	5	基本の話だけでなく、裏話も聞けて面白かった。		質問事項を紙で出して答えていただく形式は、挙手より尋ねやすく良かった。
14	5	日本で行われているEMのよい取り組みについて学ぶことができた。 自分の大学の目標や目的に合わせて、EMに取り組む重要性を理解できるよい機会を提供いただきました。ありがとうございました。		
15	5	EMの意味、山形大学での取り組みについてとても勉強になった。		
16	5	細やかな事例紹介で、大変良く理解することができました。		
17	5	先進事例を知ることができたから、大学に戻ってからさらに調べていきたい。		国

No.	満足度と選択理由 (5:満足、4:やや満足、3:どちらともいえない、2:やや不満、1:不満足)	来年のテーマ	その他意見・要望等	属性	
18	5		このフォーラムは、やはり大学の目標設定・計画にくいこんでいくものの集まりになった方がいいと思います。(戦略的なアプローチの知恵袋) 私はもう遠慮せず一人改革を始めていますが、学長も事務局長もしっかりコミュニケーションとして、各学部では「対話」重視でセンター長とまわりはじめると、組織が本当の意味で横断的に連携しはじめました。 そのための知恵・知見になるものを今後得たいです。(アドボカシー的なもの)	私	
19	5	発表された事例も興味深いものだったし、質疑応答に十分時間を割いてもらったのも良かった。	むずかしいですが、大学評価、IRの前提となるデータの集積について、教育、研究、経営分野でどのような方向性があるのか。個別大学だけではなく、国内、国際的な定義の統一など。	性格が違ってしまうのかもしれませんが、文部科学省の"担当者"も議論に参加できると良いと思います。 また、私立大学の参加が少ないのは、周知の問題なのか、制度によるものなのかはわかりませんが、検討事項だと思います。	関
20	5	各大学の事例について学ぶことができ、非常に参考になったため。	IRと学生支援		
21	5	実際にIRかEMに取り組まれている大学の事例は非常に役立つものと理解しました。学生を知らずに会議で方針を進めることはいけないという点も勉強となりました。			
22	5	具体的な各大学の事例が大変参考になりました。ありがとうございました。		私	
23	5	今まで気づかなかった視点があり勉強になりました。今回を機に勉強し、大学、学生のための大学創りに役立てていきたいです。			
24	5	理論や形式よりも実践的、実務的内容だったことが良かったのではないかと思います。		私	

※属性について 国:国立大学、公:公立大学、私:私立大学、関:関係機関